

2014年4月7日(月)

創刊号

両輪タイムズ

ホームページ版



第10回WSシナリオ作成ワークショップ研修 特集

第十回WSシナリオ作成ワークショップ研修開催

二〇一四年二月一七日～一九日の三日間、東京都中央区茅場町にある馬事畜産会館会議室で、農村開発企画委員会主催・WSシナリオ作成ワークショップ研修が開催されました。本年度丁度十回目。記念すべき年に全国から集まった研修参加者は精鋭十二名。二班集体を組みました。

開催直前の週末の大雪がたたり山梨県からの参加予定者は急遽欠席。三宅島出張中の研修生は、海路・空路とも欠航という悪条件に遭遇し、二日目からの参加を余儀なくされました。

一日目：講義と第一回ワークショップ

一七日午後、会場に到着した研修生の皆さんの間では授業開始前に名刺交換が始まりました。

出来る限り早目に『同じ釜の飯を食う覚悟』を持ち合えば、WSの重要なリソースである『メンバー』の動きや関係も良くなるもの

の。ハナから理想的な展開です。

一三時から研修開始。一時間の座学では、『本研修の目的と構成』の説明に続き、『WS手法導入の背景と沿革』、『ハルプリンのデザイン参加論』、『WSの原理と運営条件』、『運営チーム(広義のファシリテーター)の役割』等いきなりの情報爆撃に不安をかこつ研修生もおられた様です。

座学に続く『写真タイトル付け』ではWSらしい実践(パフォーマンス)で一息つきました。同時に、発想に欠かせない『切り口』



研修開始直後の講義風景。皆さん緊張の面持ち

の重要性を確認。WS参加者に適切な切り口を示せる力が、運営スタッフには必要とのことでした。

一五時からは第一回ワークショップ。参加者の立場に立った体験WSとして「農村発信フレーズ」を集団創造し、この過程で「付箋分類のコツ(意味は述部で)」も学びました。圧巻は何といつてもラップ発表表。一気に班員同士の繋がりが(共存在感)が生まれたのでは。熱のこもった本日の演習講義は一七時半に終了。

交流会は会場近くの印度料理店で、エスニックな食や、仲間との談論を楽しみました。参加型WS終了後の「祝贺イベント」はその後の活動実現に勢いをつけると言いますが、この日の様な「プレ祝贺」も中々効果的です。

二日目：第二回ワークショップ

前日の感想文への講師解説後、第二回ワークショップ開始。当回の重点作業はシナリオ作成の



農村の可能性について考える2班。場の情報創造の瞬間

起点となるWSテーマの設定です。テーマの大枠は『農村地域の問題解決策や振興策を講じる住民参加WS』と決まっています。

テーマ検討の前段として、メンバー間の先行的理解(テーマに係る基本知識)を高めるグループ討議の時間を、この回のワークショップではたつぷりと取ります。

まず両班が、『農村地域の問題および可能性』を分担して考え、その成果の発表を通じ、研修生全員で内容の共有を図りました。

次に作成シナリオを用いてWSを行う想定地域「両輪地区りょうりんちく」の概要説明があり、さらにそこで

2014年4月7日(月)

創刊号

両輪タイムズ

ホームページ版



第10回WSシナリオ作成ワークショップ研修 特集

「地域が元気になる様なWSテーマを」という希望条件が付加されました。

このあとテーマ案の絞り込みに取り掛かり、一班は「地域の資源マップ制作」、二班は「空き家活用策の検討」というテーマの目安を付けました。

ここまでメンバーの先行的理解共有のための討議プログラムが長く続きましたが、一般の住民参加WSでも、参加者間の情報格差をなくすため、『先行的理解共有プログラム導入』や『レWS実施』が必要になる場合がありま
す。自律性の高い会員同士でも、そこに情報格差があるとWSでの議論が不活発になるからです。
この回のワークショップでは、終了予定時刻三〇分前に漸くプロセスシート上で、WSシナリオの骨格の組み立てが始まりました。これまでの成果を元に、規定の表記様式に則り『WS全体テーマ』を決定し、それに沿った『想定参

加者』、『最終成果物』、『WS全体タイトル』を定めました。



出来あがったプロセスシートの発表

二日目：第三回ワークショップ

シリーズ型WSの流れとプロセスシート作成法を説くミニ講義で睡眠に襲われた後、研修生は午前

に引き続きプロセスシートを用いた作業を行いました。
まず『標準的成果創出過程』から全四回の『参加者版成果創出過程』を導き出し、その後は眠気^{あらが}に抗いつつミニ講義「創造的実践法紹介」を聴講。これに続き、各回WSの『重点作業』、『成果レベル』

『各回のテーマ』を決めました。

研修生の皆さんの作業を見てみると『運営チームに成り切ったメンバーが参加者の立場に立ってプロセスを考案する』姿が鮮やかに捉えられます。そこでは運営チームと参加者の立場の切り替えがうまく進んでいました。この対応は、集団が自己組織化し「場」が成立していないと出来ません。

両班の成果発表ではどちらにも他班から質問が出ました。この段階はシリーズ型WSの全回数繋がりや流れなど全体プロセスの検討が主眼のため、一回毎のWSの検討は限定的になります。但し最終成果物までの段階的流れと各回重点作業の把握が出来れば、ここでは十分と心得て下さい。各回の細かな作業検討は次のプログラムシートで行います。
熱心な質疑応答のため、感想提出後の終了時刻は前日に続き三〇分オーバー。皆さん、ご苦勞様でした。

二日目：第四回ワークショップ

開始時刻前の講師のお喋りからスタート。都会人の『場所のコンテキスト(文脈)解釈力の弱体化』に触れた後、前日感想文の解説へと続き九時四十五分から第四回ワークショップが始まりました。

『プログラムシート作成』がこの回のワークショップのテーマです。前日設定のプロセスシートをリソースに、各回のプログラム構成と運営チームの後方作業を想定するのがこの回の段取り。先ずは前日決定済みのWS全体タイトルやテーマ等をプログラムシートに転記することから着手。
このとき、二班は幸運な報せを講師より得ました。空き家の活用テーマにピッタリの対象「旧郵便局の洋風建築物(昭和初期建設)」が、旧宿場の家並みの中に残っているとというニュース。二班のテーマは具体的対象を取り込む形に変更され、この段階で両班のテーマは次の様になりました。

2014年4月7日(月)

創刊号

両輪タイムズ

ホームページ版



第10回WSシナリオ作成ワークショップ研修 特集

*一班：両輪地区「元気発信マップ」を作成する／*二班：旧郵便局利用プランを計画する

講師によるミニ講義『WS一回当たりのプログラム構成原理とシート作成法の解説』があり、両班は第四回ワークショップの重点作業に取り掛かりました。

映画の筋に序・破・急の流れがある様に、WSも参加者にとって使用性が良く(やり易く)、実施感の良い(達成感や納得感がある)プログラムの流れが大切です。

導入パートの『本日WS説明』グループの場力展開(メインディッシュ)パートの『重点作業』、終幕パートの『発表』、そしてクルダウンパートの『感想文記入』が基本形ということでした。

ここでの作業は、各プログラムの内容についての議論が中心となるため、「場の情報」統合の苦労がついて回り、場合によってはグループ内に意見対立(フラストレーション・混乱)も出てきます。

討議目的を共有した上でのフ

ラストレーションは、そこを乗り越えようとグループとしての大発想を生むチャンスにもなると言われますが、不毛な議論に陥らぬ注意も必要。参加者の力量範囲で、而も運営チームが背伸びをせずにできるプログラム内容かどうかの判断が欠かせぬようです。

第四回ワークショップの後半では、WS一回当たりに付随する運営チームの後方作業を想定しました。運営チームの後方作業量の多さに驚いた方も多かったのでは。時間管理を徹底したため、この回は順調に作業が進み、昼食をゆつくり取ることができました。



プログラムシートを前に1班の『場の情報』創造シーン

三日目：第回ワークショップと修了式

最終回の五回目。前回完成したプログラムシートをリソースに、両輪地区WS会場で使用する第1回WSの詳細プログラム(スコアシート)を作成しました。

最初の『本日の説明』プログラムに続く二番目の『自己紹介プログラム』は班全員で、その後に続くプログラムは班メンバーを2チームに分けて分担検討・全員調整の方法で作成しました。プログラムの意図が参加者に正しく、而も分かりやすく伝わる指示文章(スコア)の作成・推敲に、ひたすらエネルギーを投入しました。研修生の何方もが、その表現の難しさを感じたようです。

最終的に大きなA0版のスコアシートが出来あがりました。発表では、今日一日をかけて作成したプログラムシートとスコアシートの発表を行いました。このうちスコアシートはロールプレイングによる発表。班員はスコ



A0版ビッグサイズのスコアシート作成

アラー・リーダー役、両輪地区住民役に成り切って第1回WS実施シーンを表現してくれました。講義・ワークショップが全て終わり一六時四五分から修了式。農村開発企画委員会専務理事より修了証が手渡され本研修はお開きに。研修生は何方も笑顔で、三日間の缶詰研修に別れを告げました。

感想文：研修全体を振り返って

最終回ワークショップの最後のプログラム『感想文記述』で、本研修全体を皆さんに振り返って頂きました。次頁にその一部を掲げます。何方も、研修後の充足感と今後への意欲を表明しています。

